

小・中学校適正規模化実施計画(案)作成にかかる意見交換会

- ・開催日時 平成 24 年 8 月 1 日(水) 午後 7 時～8 時 30 分
- ・開催場所 南中学校 体育館
- ・出席者 保護者等 8 名

《意見集》

質問1

ケーススタディ事業とは、具体的にどのような内容なのか。南北中を対象とするのか。

回答1

南北中の統合が皮切りとなり、目標年度が平成26年度ということなので、統合に伴い、どのような事項の調整が必要となるのかという洗い出しや、どのような調整の方法が適当なのかということを研究していただくものです。その後が続く小学校の統合の参考ともなるものです。

質問2

スクールバスに関する参考資料にあるように運行するということか。登校時 1 便、下校時 2 便か。

回答2

多くの事例で、登校時1便、下校時2便となっており、運行するとすればこのような形になってくると思われます。先進事例では、統合によって学校が変わる児童・生徒が対象となっている例が多いようです。現在、南中学校へ自転車で通学している生徒に対しても、距離によってスクールバスに乗れるようにするのかどうかという点も、運営検討委員会の中で検討していただきたいと考えています。

質問3

北中の生徒はスクールバスで通え、同じ距離でも南中の生徒は自転車ということになると、子どもたちがどうなのか。

回答3

基準としては、距離ばかりでなく、通学路の状況等も考慮しなければならないと思われます。同じ距離でも、歩道付きの直線道路もあれば、狭かったり危なかったりする道路もあり、距離で一律に定めることは難しいので、運営検討委員会の中で検討していただき、互いに納得していただいたうえで運行しなければならないと考えています。

質問4

運営検討委員会は、いつ設置するのか。構成は。

回答4

本実施計画に皆さんの理解をいただき、議会の議決をいただいた段階で発足させることとなります。構成は、南北中の場合、現在の南中学校と北中学校の、先生、PTA で構成することとなります。

質問5

運営検討委員会は、何人で、どのくらい開くのか。あまり多くてもまとまらないと思うが。

回答5

各地区の役員さんに入ってもらわなければならないかと思います。先進事例では、同様の検討委員会は、2ヶ月に1回程度開いた例があります。ケーススタディ事業の中で、何人ぐらいの構成が適切かという基準を出してもらえるのではないかと考えています。

質問6

2年後に中学校、4年後に小学校の統合を実施する目標ということだが、中学校の統合が26年度にできても、小学校が目標の年度に統合ができない場合は、3年後、4年後に変更になるということか。

回答6

地元の方の理解が得られないのに、強行するわけにはいかないという考えです。なるべく皆さんの理解を得た上で実施する。しかし、100人が100人、全部が賛成というわけにはいかず、我慢してもらう人が出てくるかもしれませんが、何とか、26年、28年という目標はクリアして、足並みをそろえて実施したいと考えています。

小学校でも、現在、上佐谷小学校に複式学級があり、今後、牛渡小学校や志士庫小学校でも複式学級が見込まれています。そのような状況なので、子どもたちを集めて、よりよい環境で教育したいと考えているものです。

意見1

子どもの数が減ってしまうので、親たちが別の市町村へ転居してしまうという例があると聞く。なるべく早く、計画どおりできるとよいと思う。

質問7

参考資料にあるスクールバスの運行状況は、他市町村の小学校の事例だが、中学校の状況はどうか。中学校にバスが出るのであれば、小学生も利用できるのではないか。また、部活動への対応は。

回答7

中学校は、まだ、あまり事例がありません。小学生も一緒に利用するという例は聞いておりません。現在、全国的にも、県内でも、統合が流れとなっており、一緒に進めているところが多いので、徐々に事例がでてくると思われます。ある市では、中学校では3台運行していて、6km以上のところに停留所を設置し、一律に一月当たり3,000円ということで運行しています。6km以内の生徒も停留所まで行って乗っているかたちです。特別、部活動に対応しているということではないということですが、下校時が2便ですので、部活動終了後の時刻に設定されているということだと思います。土・日、夏休み期間中などは運行していないということです。

質問8

スクールバスは無料か。

回答8

本計画案では、無料を想定しています。審議会答申でも、保護者の負担が生じないようにという意見をいただいていますので、それを尊重して、無料を前提に計画案を作成しています。国の制度としては、小学生4km、中学生6km以上の通学距離の場合に、路線バスの定期代が助成される仕組みとなっています。無料と有料では、運行にかかる許可の関係が違い、有料とした場合には手続きが難しくなるという状況もありますが、今後、検討委員会の中で、近距離を対象とするとか、より細かく路線を設定するなど、費用が増加していく方法を検討する場合には、有料化が一つの選択肢となる可能性もあると思います。

質問9

タイムカプセルなど、校舎内外の子どもたちの思い出の品の扱いは。

回答9

子どもたちの思い出の品で、非常に大事なもののなので、跡地が売却されるというようなことになれば、了解を得て移動することになると思います。または、統合を機に開ける、または各学校で閉校式を開催する際に開けるという方法もあるかと思います。統合前の3月には閉校式を行い、新しい学校で開校式を行うことになると思います。新設校ということなので、すべての学校で行うことになると思います。また、各学校の歴史が分かるような部屋を作ってはどうかと考えています。また、記念誌を作成して、整理した場合もあるようです。

質問10

兄弟が多いので制服のおさがりを着させようと思ったが、そういうものは一切なしで、新しい学校になれば新しい制服ということになるのか。

回答10

検討委員会で皆さんに検討して決めていただくことになりますが、一般的な例としては、在校生は、すでに着用している制服を着用し、新入生が新しい制服を購入する。買い替えの必要があれば新しい制服を購入することとする例が多いようです。

質問11

空き校舎の利用は。

回答11

今のところ具体的には決まっていません。今後、転用する際には、検討組織や地元説明会などによって、地元の皆さんの理解がいただけるよう進めていかなければならないという考えです。また、国では「みんなの廃校プロジェクト」といって、廃校施設をデータベース化し情報提供を行い、様々な企業などに利用を呼びかけていくというようなプロジェクトを立ち上げていますので、このプロジェクトへの参加なども検討する必要があると考えています。

質問12

雪国では、寄宿舎というような取り組みをしている例も聞くが。

回答12

小学生は親元から通わせるのがいいだろうと思います。

質問13

昔は自転車で高校まで通ったが、今は車で送っていく保護者が多い。

回答13

道路そのものはよくなっていますので、遠くても自転車で通いたいという場合は、自転車ということで、何が何でもバスでなければいけないということではないと思います。バス通学にすると、体力は落ちると思われませんが、巾木免のように遠い地区や、牛渡の有河のように遠い上に坂道が多い地域もあります。

質問14

統合について、意見を送ることができるようにホームページはあるのか。

回答14

今のところ、統合に限定したページは設けていませんが、市のホームページから意見を投稿していただければ、学校教育課に届きます。統合関係の記事としては、学区審議会の答申を掲載していますが、今後、本実施計画案が固まったあたりで、掲載を検討していきたいと考えています。